

## 2 - 4 . 海岸の課題

前項までで取りまとめた丹後沿岸の現況と歴史、地域の状況や意見を踏まえ、防護・環境・利用の観点から、海岸及びその周囲も含めた諸課題を抽出した。

### 2 - 4 - 1 全体の課題

#### (1) 防護に関する課題

##### 侵食に対する防護

本沿岸の比較的延長の長い砂浜海岸は、阿蘇海を形成する天橋立地区海岸や、久美浜湾を形成する久美浜海岸などがあるが、それらの海岸では、砂供給の減少、構造物設置による沿岸漂砂の阻止などにより、砂浜の侵食がみられる。



砂浜の侵食（久僧海岸）

また、両端を岩礁に囲まれたいわゆるポケットビーチにおいても、本来安定した海岸地形であるにも関わらず、久僧海岸、三浜漁港海岸など、一部に侵食が生じている海岸も見られる。

これらは、河川上流域や近傍沿岸での構造物設置による供給砂の減少が主原因と考えられるが、それら構造物も地域住民にとっては必要不可欠なものであり、海岸防護

を考えるに当たっては、それら人工構造物の影響を前提とした対策が課題である。また、現在は侵食されつつある砂浜も海岸の長い歴史の中でできたものであり、その対策は歴史保全の意味も持つ重要なものである。

##### 越波・浸水に対する防護

丹後沿岸の多くは、背後に山地を控え狭隘な地形であるため、市街地や集落が海岸に迫っており、宮津港周辺等では冬季風浪や台風に伴う越波やしぶきの被害を受けている。また、伊根湾周辺では、家屋への浸水被害も発生している。湾内や道路沿いの海岸は古くから護岸が整備



伊根舟屋（伊根漁港海岸）

されているが、古い石積みのももあり一部に老朽化が見られ、また計画天端高に達していない箇所も多いことから、越波による被害が懸念される。これら被害を受けやすい地域は、例えば伊根舟屋など伝統的な家並が保存されているところもあり、海岸保全は地域における伝統保存のためにも非常に重要であることから、これらの対策が課題である。

京都府では冬季風浪を想定して護岸高を設定して整備しているが、津波については若狭湾内断層地震の津波高（最大  $h=1.10\text{m}$ ）を想定しており、これは、冬季風浪に対して十分小さな値となっている。今後の課題としては、日本海プレート境界型地震の津波想定研究とその対応や、関係機関と連携した津波浸水想定・住民避難な

どソフト対策についても、検討を進める必要がある。

## (2) 環境に関する課題

### 生物の生息、生育環境の保全

久美浜海岸のトウテイラン等貴重な植生、また動物類、昆虫類等が海岸沿いに広く分布しており、海岸の環境を守るため、海岸保全上これらにどのような配慮をしていくのが課題である。

また、沿岸海域では、岩礁性の海岸を中心に藻場が広く分布しているが、近年の藻場消失面積は約8%と全国平均の約3%を大きく上回っており(昭和53年~平成4年)、更に、阿蘇海、久美浜湾など閉鎖性水域においては、水質や底質の悪化が見られる。これらの範囲を含む一連の広域的な海岸保全を考える上で、このような問題への対応や対策も課題である。



オオミズナギドリ(冠島)  
(出典: 京都の自然 200 選)

### 優れた海岸景観の保全

丹後沿岸は、日本三景の一つである天橋立を始め多くの優れた海岸景観を有し、これらは貴重な観光資源であるとともに地域の誇りとなっている。しかし近年、海岸域の漂砂環境の変化による砂浜の侵食や海岸保全施設そのものによる景観への影響などが生じてきているため、どのように優れた海岸景観を保全していくのが課題である。



丹後松島  
(出典: 京都の自然 200 選)

### 自然環境に対する人為的影響の緩和

沿岸のほぼ全域において、マナーの悪い釣り客やサーファーによる投棄ゴミ問題、海外や流域河川からの漂着ゴミ問題などが目立ってきており、一部の砂浜では不適切な車両の乗り入れが見られるなど、人為的な要因による自然環境の悪化が見られる。



海岸のゴミ(琴引浜)

また、平成9年1月のナホトカ号の油流出事故に代表されるように、海岸の環境に極度に大きな影響を与える突発的な事故も発生している。

これらに対する抜本的対策は非常に難しい問題であるが、海岸保全上の大きな課題である。

### (3) 利用に関する課題

#### 地域の特性や動向と連携した海岸整備

生活、商業、レジャーなど利用の形態を問わず、海岸への交通アクセス向上は重要課題である。

丹後沿岸は地形が非常に複雑であるが、海岸背後地の土地利用や道路網の整備などのまちづくりと連携し、地域と一体となった海岸整備が課題である。



道路網の整備

#### 様々な沿岸利用への配慮

丹後沿岸では、伝統的な地域に密着した生活利用、砂浜の海水浴利用を中心とした海岸域の観光・レクリエーション利用、海岸の漁港・港湾利用、湾内地域の養殖利用など海域における漁業利用など、様々な沿岸利用がなされている。

したがって、海岸の保全や施設の整備にあたっては、これら沿岸利用に十分配慮した上で行っていくことが課題である。



海水浴で賑わう海岸（久美浜海岸）

#### 海辺へのアクセスの確保

丹後沿岸においては、山地が直接に山に迫る海岸が多い反面、砂浜海岸や河口部などの低地帯、磯遊びなどができる岩礁地帯などが各所に点在しており、これらは人々の生活の場、憩いの場として重要である。

昔から海岸が様々な利用されてきた形態を踏まえるとともに、外来者もこれらの海辺へ近づき海とふれあえるよう、海辺へのアクセスを維持、向上させることが課題である。



浜辺へのアクセス強化（湊宮葛野地区海岸）